



5年生が餅つき体験 12/2

中郷まちづくり協会様のご多大なるご支援により、今年度も5年生が田植えや稲刈りを体験させていただき、収穫した餅米を使って、餅つき体験を実施しました。

中郷っ子のために、お忙しい中、ご支援をいただきました中郷まちづくり協会長様、事務局長様、田園主の柴原区長様、副区長様、児童民生委員様に深く感謝申し上げます。



よろしくお願いします。



蒸した餅米をまずは試食中！
熱々をいただいております😊



杵と臼を使って、餅つき体験中！頑張っておいしいお餅を！



お餅にきなこをまぶして、おいしいきなこ餅の完成です！



お世話になったみなさんに、感謝していただきます😊



生活集会実施 11/27

生活集会の中で、「第2回室内こっこオリエンタリング」を実施しました。今回は、6年生とともに実施本部を立ち上げ、第1回の反省点を生かしつつ、企画・運営等にも携わってもらい、様々な準備を進めました。

イベントの企画・運営をすることを通して、6年生はよい経験をすることができたと思います。それを生かして、1月31日（金）に実施される生活集会の企画・運営にチャレンジして行ってほしいと思います。



まずは打合せタイム！



協力してさがしています！



第2回室内こっこオリエンタリングで協力して写真の場所をさがし、「おふさげ中郷」というテーマで楽しく写真を撮りました。たいへん素晴らしい成績でしたので、ここに表彰します。



令和6年12月5日
第2回室内こっこオリエンタリング実施本部



結果の発表担当



賞状の作成及び表彰式運営担当

地域の皆様と交流 11/29

3・4年生が地域の皆様をお招きして、交流会を実施しました。4年生が中心となって、劇、ダンス、ゲームのチームに分かれて準備や練習に取り組んでいました。とても楽しい劇、素敵なダンス、みんなで盛り上がったゲームと、とても楽しいひとときを過ごすことができました。3・4年生の頑張り大きな拍手を送ります。また、お忙しい中、ご来校いただきました皆様、誠にありがとうございました。



劇を披露中！



ダンスタイム！



椅子取りゲーム！



王様ジャンケン！

保健集会 12/4

健康パワフル委員会が準備した保健集会が実施されました。健康カルタ取りでは、縦割り班ごとに、楽しく健康について学ぶことができました。班の中では、高学年を中心に「輝くところ」を發揮し、持ち札が少ない子に配慮しながら、ゲームを進めることができました。



福島放送見学 11/28

5年生が中妻小と合同で、福島放送(KFB)を見学しました。スタジオの中でカメラを操作したり、クロマキー合成を体験したりして、放送局の仕事について学びました。お忙しい中、子どもたちに貴重な学習の機会を提供いただきました。福島放送の皆様へ感謝申し上げます。



校長室から

『輝くところ』を育てるために

心理カウンセラーで自己肯定感についての第1人者である、中島輝さんは次のように話をしています。

「自己肯定感」は、子どもが今後の長い人生を生きていく力、幸せになる力そのものです。どんな否定的な状況のなかでも、自己肯定感があれば、笑顔になります。

中島さんが出版した本の中に、『何があっても「大丈夫」と思える子に育つ子どもの自己肯定感の教科書』があります。子どもたちが、つらいことや悲しいことが起こったときにどう乗り越え、幸せを見つけていけるか、子どもの自己肯定感を育てる方法が紹介されています。私も、参考にしながら子どもたちとふれあい、声をかけるようにしています。中島さんが、東洋経済オンラインの中で、この本から抜粋、再構成しながら『ひとことで子どものやる気を挙げる「声かけ10選」というコラムを掲載していましたので紹介します。



テーマ①「ほかの子と比べると危険」

わたしはよく、たとえ話として「うさぎと亀」の話をしします。うさぎと亀が競走をして、足の速いうさぎが油断してお昼寝しているあいだに、ゆっくり歩く亀に追い抜かれてしまいます。気がついたうさぎが急いで追いつこうと走りますが、亀のほうが先にゴールしてしまう話です。

うさぎも亀も、スタートもいっしょ、ゴールできたことはいっしょです。何が違うかという点で、うさぎは、だれか(ここでは亀)と比較して行動していたこと。亀は、うさぎのことは気にせずに、ただあきらめずにゴールに向かっていったという点です。うさぎは亀が来なければ昼寝し、亀に追い抜かれたとあれば走り出す。うさぎの行動は、亀との比較が基準です。うさぎを人間にたとえるなら、他人と比較することでしか自分の価値を決められない、他人と比較して行動するという点になり、他人に振り回される「他人軸」の人生になってしまいます。

一方の亀はどうでしょう。亀はうさぎのことは見ていません。見ていたのは「ゴール」だけ。自分軸をもって、ゴールするぞと歩いていたのです。競走の途中では急な山道を上ったり下ったり、道が曲がったり、まさに紆余曲折があったでしょう。でも亀はゆっくりでも「ああ、自分には長い爪があってよかったな。この爪があれば転ばなくて済むな」とか、「疲れたけど、4本の足を使って踏ん張ろう」と思いながら、ゆっくり、でも着実にゴールに近づいていたはず。亀は、「もうダメだ」「ゴールなんてできるわけない」と思わなかったです。このときの亀の頭のなかで起こっていることこそが、わたしがよくお伝えしている「肯定感情」であり「肯定脳」です。これがあれば、1歩1歩、ゴールに向かっていけることができます。

小学校の高学年に入っていく10歳ごろは、自己肯定感が下がりやすい時期ともいえます。どうしても友だちと比べて「○○ちゃん是可以の、わたしはできない」「○○くんも持っているから、ほくほしい」などといったように、人との比較によって判断したり、浮き沈みをしたりしやすくなります。学校に行けば同級生がいる。人と比べるといってもなかなか難しいでしょう。だからこそ、せめてお母さん、お父さんは、だれかと比較するのではなく、子どもの強みや、子どもの目指す目標や目的に向かって歩けるように意識して声かけをしてあげましょう。

「うさぎと亀」の亀のように、自分でゴールを設定できるように導いてほしいのです。その子の特性を伸ばすために、まずはここが第1歩です。これから紹介するような「言葉かけ」をどんどんして、子どもに肯定感情や肯定脳ができていけば、子どもは自分の目標に向かって着実に歩いていきます。

(つづく 次回テーマは「子どもを観察して0.1ミリの変化に気づく」です。)

ようこそ幼稚園のみなさん 12/9

1・2年生が、中郷幼稚園の年長児を招待して、楽しく交流をしました。4つの遊びコーナーで、1・2年生は、お兄さん、お姉さんとして張り切って活動していました。



中郷幼稚園の発表会予行を見学

